

学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成28年度の取組の概要

学 校 名	東松島市立大塩小学校	主な取組教科	算数科
研 究 主 題	自ら考え、筋道を立てて表現し、学び合う児童の育成 —算数科における言語活動の充実を通して—	研究年次	2 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
学習指導要領解説の分析により、ねらい（内容のよさ、留意点）を明確にした上で、ねらいにせまる言語活動を構想した。	言語活動と算数のねらいのずれがなくなり、言語活動の充実が、深い学びにつながった。また、表現と思考の相互補完により、思考力・表現力が向上した。	児童の姿（観察）、児童の発言、振り返り・ノート・ワークシート等の記述（数理的処理のよさを実感している記述）、評価問題から。
生徒指導の機能を生かすことにより、主体性、意欲、学級で何でも言い合えて間違いが許される雰囲気を引き出した。	言語活動、アクティブ・ラーニングの活性化に機能し、友達との学び合いから深い学びを実現する土台として有効に作用していた。重要性を再認識している。	児童の姿（観察）、振り返り、児童の意識調査（主体性や意欲、友達からの学びの記述）から。
「ステップアップ5」、「5つの提言」と言語活動の充実のための「指導方法や教材の工夫」で整合性を図った。	「ステップアップ5」、「5つの提言」は、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの活性化を引き出し、深い学び、思考力・表現力の向上に機能した。	児童の姿（観察）、児童の発言、振り返り（数理的処理のよさを実感している記述）、評価問題から。
調査官の文献を中心に、理論研究や先行研究を土台とすることで、全職員が一つの方向性をもって授業改善に取り組んだ。	ゼロからのスタートでなく、効率的な指導効果が上がった。根拠・確信がぶれない授業づくり、研究実践の焦点化を図ることができた。	児童の姿（観察）、教師の手応え（教師の感想）、評価問題（意欲、主体性、知識・理解、表現・思考力）から。

2 残された課題と今後の方向性

課題	改善の方向性
文献研究（理論、先行）の推進、深化によるより実効性の高い授業づくりの推進。	文献研究、実践の振り返りを継続し、教員の研究協議の充実を図り、個々の授業改善に係る資質・能力の向上を図る。
授業で育まれた思考力・判断力・表現力に関する学力の習熟を高める指導の工夫。	これまでの実践を学習内容や児童の実態に合わせてながら継続し、その中で学力向上につながるような取組を行っていく。

◆東松島市立大塩小学校 研究関連 URL : <http://www.ooshio-e.higashimatsushima-c.ed.jp>